

小川町に住んでちょうど30年たちました。山形県出身で、2時間かけて都内で働くそんな私が4年前、地区の区長を任されました。そこで触れたのが、共助・助け合いの姿です。この地域の力に支えられて、2年間の任を無事終えることができました。また先の台風19号では、被害に遭われた方々に寄り添い、自発的に被害ごみを片づける各地区の姿を見聞しました。

縁あって私の田んぼで、文京区の小学5年生の自然体験（田植え・稲刈り）を受け入れ、6年目を迎えます。近い将来、この子たちが再び町を訪れ、また住まいを求めてくれることがあれば、うれしい限りです。そのためにも、この自然環境と田園風景を残していきたいものです。そしてこれも、下里上区水利組合の皆さんなど多くの方の惜しみない協力によって、今日まで継続できているのです。



地域の力に
支えられて

吉田俊彦さん（下小川一）
YOSHIDA Toshihiko

小川町に生ま
れて思うこと



佐藤雅敏さん（青下二）
SATO Masatoshi

私は小川町に生まれ、27歳になります。生まれたとき脊髄損傷で両足が不自由で、今も装具と杖がないと歩くことができません。でも私はさまざまな方のご尽力によって、地元の小学校・中学校・高校を卒業して、角山にある会社に勤めて7年目になります。小学校に入学のときもトイレが和式から洋式に、またスロープをつけて車いすでも対応できるようにも考えていただきました。障害の有無に関係なく、大好きな小川町で楽しく安全に過ごしていけると皆が感じるのが大事だと思います。

私は音楽が大好きです。地元カラオケ店や映画館等の娯楽施設があると、行動範囲も広がるのではと思っています。これまでも、またこれからもお世話になる方々に感謝の気持ちを忘れることなく、さらなる自身の成長とともに自然豊かな小川町の発展を心より願っています。

次の定例会は

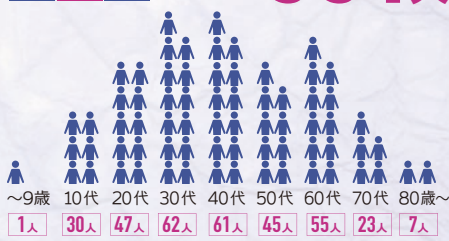
6月4日(木)～
午前10時開会 ※日程は変更になる場合があります。詳しくは議会HPへ



議員の

おがわぎかい No.80～議員がインタビューした町民みなさんの数

間く×現在 **331人**



・今号の表紙・

澄み渡る空に
映える子供たち



閉塞感が漂う中、元気に遊ぶ子供たちを見ました。（小川保育園）

編集後記

7都府県に緊急事態宣言が発令されました。「3つの密が揃う条件を極力避け、不要不急の外出自粛要請」。このような状況下でも、対策を講じながらの編集会議。特に力を入れた巻頭特集には、多くの町民の皆様に登場していただきました。「小川町の未来」共に感じとっていただけたら幸いです。（笠原英彦）



表紙の和紙、委員みんなで染めました！

発行責任者：小川町議会議長 大戸久一

編集：議会広報発行特別委員会

委員長 高橋さゆり 副委員長 笠原規弘

委員 笠原英彦・高橋功人・笹本孝幸・五十嵐康博

UD
Font



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しています